

令和7(2025)年度

「運営に関する計画」

最終評価



大阪市立御幣島小学校

令和8年2月

大阪市立御幣島小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

「豊かな心を持ち、未来を切り拓く子どもを育てる」という学校教育目標のもと、昨年度も落ち着いた状況の中で、授業・学校行事・人権教育などの様々な活動に取り組んできた。各学年、工夫を凝らしながら教育活動を進めることで、一人一人の児童が生き生きと活躍する場面が随所に見られた。

ただ、昨年度も、校外でのSNS等のトラブルが発生している。スマホの使い方は、学校だけでなく家庭との連携も大切であり、小さいうちからの使い方の啓発が必要である。学校だけではなく、PTA、地域とも連携・協力をしていく。また、学級・学年での遊び方のルールや学校のきまりを児童、教職員で再度確認し、共通理解をしていく必要がある。「学校が楽しい」については、目標を大きく超えており、自己肯定感や自尊感情の高まる体験ができるように、さらに教育活動を工夫していく。

昨年度は、「自分の考えをもち、主体的に学ぶ子どもの育成～読み取る力を身につけ言語活動に活かす～」とし、研究に取り組んだ。特に、「読み取る力」に重点をおいたことで、小学校学力経年調査の結果からも、国語科においては一定の成果が見られた。だが、算数科では、基礎、活用ともに課題が見られ、今年度は算数科の指導にも力を注いでいく。

デジタルドリル等の一人一台端末の活用や授業でのデジタル教科書の活用は年々進んでいる。さらに、タブレットの持ち帰りや休み時間の使用方法など、学校全体でのルールの共通理解を進めながら授業の対応を進めていかなければならない。

今年度も、いじめに対する一人一人の認識を深めつつ共通理解を図っていきけるように、人権教育を中心に考えながら、丁寧で粘り強い対応を重ねていく。さらに、学力だけでなく体力に関しても更なる向上を図っていく。また、教員の働き方改革についても、様々な取組の中で教育の質とのバランスを図りながら、教育活動を進めていく。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

○令和7年度小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合100%をめざす。

【今年度 83.8%】【昨年度 83.0%】

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○令和7年度末の校内調査における「学校・家庭で学習する習慣が身につけている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える保護者の割合を90%以上にす

【今年度 83.2%】【昨年度 83.0%】

○令和7年度小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を66%以上にす

【今年度 73.5%】【昨年度 72.1%】

【学びを支える教育環境の充実】

○令和7年度末の校内調査の「日々の学校生活の中で、学習者用端末を活用している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を100%にする。

【今年度 87.9%】【昨年度 86.5%】

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。

【今年度 83.8%】【昨年度 83.0%】

○本市調査における「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を75.4%にする。

【今年度 81.3%】【昨年度 75.3%】

○小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を89.7%以上にする。

【今年度 87.7%】【昨年度 89.6%】

○小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を81.7%以上にする。

【今年度 81.7%】【昨年度 81.6%】

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を45%以上にする。

【今年度 39.8%】【昨年度 44.0%】

○小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対大阪市比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.02ポイント向上させる。

【今年度：国 4年 1.03・5年 1.01・6年 1.01、算 4年 1.03・5年 1.02・6年 0.99】

【昨年度：国 3年 0.99・4年 1.02・5年 1.01、算 3年 0.98・4年 1.03・5年 0.98】

○小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を72.2%以上にする。

【今年度 73.5%】【昨年度 72.1%】

○校内調査における「学級の友達と話し合う活動を通じて、分かったことや気づいたことがありますか」に対して、肯定的な「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と回答する児童の割合を90%以上にする。

【今年度 87.7%】【昨年度 89.9%】

【学びを支える教育環境の充実】

○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕

【今年度 55.0%】【昨年度 27.3%】

○毎週1日以上、ゆとりの日を設定する。夏季・冬季休業期間中の学校閉庁日を3日以上設定する。

【今年度 3日以上設定】【昨年度 3日以上設定】

○年度末の教職員アンケートの「校内研修が充実していたと思うか」の項目について肯定的に答える教職員の割合を90.6%にする。

【今年度 100%】【昨年度 90.5%】

○学習者用端末で、児童が「心の天気」「オンライン授業」「相談機能」「デジタルドリル」等の活用を併せて一日1回以上行うようにする。

【今年度 1回以上実施】【昨年度 1回以上実施】

○教職員の資質向上をめざし、授業研究を含む各種校内研修を月平均2回以上行う。

【今年度月平均 2回以上実施】【昨年度月平均 2回以上実施】

○教室の環境整備の目標として、児童の身長にあった使いやすい高さになるよう、年2回の調査を行い、適切な児童机・椅子を配備する。

【今年度年 2回実施】【昨年度年 2回実施】

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

各学年で実施された「みんな遊び」や「いいところみつけ」、学校全体での「たてわり班活動」は、児童同士の自然な交流を生み出した。こうした活動は、学級の枠を超えたつながりを促し、困っている友だちに気づき、行動に移す力の育成につながったと考えられる。その結果として、校内調査における「困っている子がいたら、話を聞いたり助けたりする」という質問に対し、「する」「どちらかといえばする」と回答した児童が 89.7%に達し、目標としていた 85%を上回った。

また、非行防止教室やスマホ安全教室は、児童が直面しやすい情報モラルの課題に対して有効であった。しかし、ラインや SNS やスマートフォンの利用に関しては、学校の指導だけでは難しい側面もあり、引き続き適切な使い方や情報発信の際に注意すべき点を啓発していく必要がある。

人権教育についても、年間指導計画に基づき体系的な取組が行われたことで、児童の人権意識の育成が着実に進んだ。ゲストティーチャーを活用した学習や体験活動は、教室内での学びをより具体的で実感を伴うものとし、多様な価値観を尊重する今後も継続した実践と改善を重ねながら、児童一人ひとりが安心して学び、互いを大切にできる学校づくりを進めていく。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

今年度は、テーマを「子どもの数学的な見方・考え方を育む算数の授業～子ども自ら問いをもち、学び進められる姿をめざして～」とし、研究に取り組んだ。算数科では、話し合い活動を多く取り入れた授業改善により、児童の理解の深まりや自信の向上が見られ、校内調査では「話し合い活動で気づきがあった」と答えた児童が 87.7%だった。ただし、自分の考えをまとめることが苦手な児童は他に任せがちになるなど、個々の差が課題として残った。来年度は、より深まりのある話し合いにするために、さらにわかりやすい授業をめざし、教材研究を進めていく。

タブレット端末を使用しての家庭での活用が進んだことで、デジタルドリルやインターネットを使った自主的な学びが拡大し、「自分から進んで学習している」と答えた児童は 84%に達した。

さらに体育科では、学習カードや個人目標の設定といった工夫が意欲向上につながり、「運動が好き」と肯定的に回答した児童は 88%と高い割合を示した。体育科の授業では、技術だけでなく、ワークシートなどでも成長の様子を把握し、苦手な児童も取り組みやすいスモールステップの授業づくりを行っていく。

また、準備時間を短縮するために、体育用具の効果的な使い方や準備の工夫を教員間で共有し、指導時間を充実させる。さらに、屋外で活動しにくい時期でも、校内で体を動かせる機会を確保し、授業外の体力づくりも考えていく。

【学びを支える教育環境の充実】

本年度は、ゆとりの日の確保や会議時間の短縮が進み、働きやすい環境づくりに大きな進展があった。会議・研修のない日も目標を上回り、校内研修も計画的に実施できた。一方で、学習者用端末の活用に偏りや差が見られ、ICT 活用の質をさらに高める必要が明らかとなった。机・椅子の調査も年 2 回以上実施し、適切な環境整備が行えた。

来年度は、短時間でも効果的な研修方法を工夫し、業務効率化と学びの充実をさらに両立させたい。また、ICT 研修を強化し、児童がより主体的に端末を活用できるよう環境を整備していく。机・椅子の調査も引き続き継続し、安全で快適な学習環境を維持していく。

さらに、働き方改革を進めながら、児童にとってより良い教育環境の充実を今後もめざしていく。

大阪市立御幣島小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。 【今年度 83.8%】</p> <p>○本市調査における「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、肯定的な回答する児童の割合を93.2%以上にする。 【今年度 100%】</p> <p>○小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を89.7%以上にする。 【今年度 87.7%】</p> <p>○小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を81.7%以上にする。 【今年度 81.7%】</p>	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>○いじめ0や不登校0をめざして、年間を通じて、みんな遊びなどの学級活動を進めることにより、仲間づくりを進める。</p> <p>○話し合いや教え合いなどの協同的な学習活動を進めることにより、支え合える集団づくりを進める。</p> <p>指標</p> <p>◇校内調査における「困っている子がいたら、話を聞いたり助けたりする。」の項目について、「する」「どちらかといえばする」と答える児童の割合を85%以上にする。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>○携帯電話の正しい使い方について、理解する場や研修会を行う。</p> <p>指標</p> <p>◇携帯電話の正しい使い方を、理解する場や機会を複数回設ける。</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向2、豊かな心の育成】</p> <p>○教育活動全体を通じ、発達段階に応じた系統的な人権教育の実践により、児童が様々な人権課題に対する正しい理解と認識を深め、日常生活の中で自他の生命と尊厳を互いに尊重しあう態度を育む。また、体験的な活動を積極的に取り入れ、心豊かに学ぶ児童を育成する。</p> <p>指標</p> <p>◇人権教育年間指導計画を作成し、学期に1つ重点教材を設定し、学年ごとに取り組んだ実践の交流を行う。</p> <p>◇ゲストティーチャーを招いた体験的な人権教育に各学年1回以上取り組む。</p> <p>◇各学年で、体験的な学習を積極的に取り入れ、豊かな心を育成する。</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>取組内容①</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学年、「みんな遊び」や「なかよしタイム」「お誕生日会」などの活動を通して、いじめ0・不登校0をめざして取り組むことができている。 校内調査における「困っている子がいたら、話を聞いたり助けたりする。」の項目について、「する」「どちらかといえばする」と答える児童の割合を85%以上にする指標に関しては89.7%で、概ね目標は達成できている。 	

取組内容②

- ・非行防止教室やスマホ安全教室（ドコモ）を通して、スマホ・SNSの使い方や危険性を学ぶことができた。
- ・発達段階に応じて学活、道徳、総合的な学習の授業の中で取り組むことができた。

取組内容③

- ・人権教育年間指導計画に基づいて、各学年人権教育に取り組むことができた。
- ・ゲストティーチャーの活用や体験的な人権教育の学習に取り組むことができた。

次年度への改善点

取組内容①

- ・不登校傾向の児童に対して、教職員間で共通理解を図り対応を考えていく。
- ・スクールカウンセラーや諸機関との連携を図る。
- ・今後も児童同士が助け合いの雰囲気を生かし、仲間づくりができるような活動の機会を工夫していく。

取組内容②

- ・継続して指導していくとともに、低学年のうちからスマホの指導をしていく。

取組内容③

- ・今後も、ゲストティーチャーを招き継続して体験的な活動を行っていく。

大阪市立御幣島小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を45%以上にする。 【今年度 39.8%】</p> <p>○小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対大阪市比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.02ポイント向上させる。 【今年度：国4年1.03・5年1.01・6年1.01、算4年1.03・5年1.02・6年0.99】 【昨年度：国3年0.99・4年1.02・5年1.01、算3年0.98・4年1.03・5年0.98】</p> <p>○小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童72.2%以上にする。 【今年度 73.5%】</p> <p>○校内調査における「学級の友達と話し合う活動を通じて、分かったことや気づいたことがありますか」に対して、肯定的な「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と回答する児童の割合を90%以上にする。 【今年度 87.7%】</p>	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4、誰一人残さない学力の向上】</p> <p>○新学習指導要領に基づき、各教科の年間指導計画を立て、教材研究を進めていく。</p> <p>○基礎基本の習得に重点を置きつつ児童間での意見の交流の場を多く設定し多様な班活動やペア活動等での話し合う活動を積極的に取り入れた授業を工夫して実施する。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>◇校内調査における「学級の友達と話し合う活動を通じて、分かったことや気づいたことがありますか」に対して、肯定的な「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と回答する児童の割合を75%以上にする。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向4、誰一人残さない学力の向上】</p> <p>○紙媒体のドリルと並行して、デジタルドリルの活用も進め、自ら進んで学習課題に取り組む児童を育てる。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>◇年度末の校内調査における「学校・家庭で自分から進んで学習している」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と肯定的に答える児童の割合を80%以上にする。</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向5、健やかな体の育成】</p> <p>○年間指導計画をもとに、運動する楽しさや喜びを味わうことができる体育科の授業作りを目指す。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>◇小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることが好きですか」に対して、肯定的な「好き（どちらかといえば、好き）」と回答する児童の割合を80%以上にする。</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>取組内容①</p> <p>・算数科を中心に教材研究を深め、授業展開を工夫した。特に、ペアやグループでの話し合い活動を積極的に取り入れたことで、校内調査における「学級の友達と話し合う活動を通じて、分かったことや気づいたことがありますか」に対して、肯定的な回答は87.7%と目標を大きく上回ることができた。話し合う学びを通して、自分の考えの良さに気付ける児童が増えた。一方、考えを伝えたり、まとめたりすることが苦手な児童は、他の児童に任せてしまい、児童によって差があった。</p>	

取組内容②

- ・タブレット端末を自宅に持ち帰ることが増えたことで、紙媒体のドリルに加え、すき間時間や宿題等でデジタルドリル等を活用する機会が増えた。また、各教科の調べ学習において、疑問に思ったことや、詳しく調べたいことをタブレット端末を使って主体的に学習する場面も見られた。よって、校内調査における「学校・家庭で自分から進んで学習している」の項目について、肯定的に答える児童の割合は84%と指標を上回ることができた。

取組内容③

- ・年間指導計画をもとに、各学年が工夫した授業作りを行ってきた。学習カードを使用したり、個人の目標を設定したりすることで、体育科の授業に意欲的に取り組めるようにした。小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることが好きですか」に対して、肯定的な「好き（どちらかといえば、好き）」と回答する児童の割合は88%と指標を上回ることができた。

次年度への改善点

取組内容①

- ・来年度は西淀川区の研究発表もあるので、算数科の研究を進めていく。その上で、話し合い活動を積極的に進めていけるよう、何のための話し合いなのかをわかりやすく示し、考える時間を確保できるように手立てを工夫していく。また、誰もが安心して話し合いに参加できるように、人と異なる意見が尊重される環境づくりを整えていく。

取組内容②

- ・引き続き、タブレット端末を活用しデジタルドリルや学習アプリを活用し進んで学びが深められるようにする。調べ学習で活用する際は、どのように調べるとよいか支援することも大切。
- ・高学年になるほど、学校や家で進んで学習している児童が減ってきているので、目標や計画を立てて、それを達成できるように記録をつけられるようにする。また、児童が知りたい、学びたいと思えるテーマを設定するなどの工夫も必要。

取組内容③

- ・体育科の授業では、技術の向上だけでなく、ワークシート等で成長の過程を評価できる仕組み作りを行い、スモールステップ等で体育が苦手な児童も楽しめる場を設定する。授業準備の時間短縮の工夫や、体育用具の効果的な使用方法の共有を行うことで、指導時間を充実させる。また、体育の授業時間外の体力づくりを充実させるために、屋外の活動が制限される時期に体を動かす機会の検討が必要。

大阪市立御幣島小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕 【今年度55.0%】</p> <p>○毎週1日以上、ゆとりの日を設定する。夏季・冬季休業期間中の学校閉庁日を3日以上設定する。 【今年度3日以上設定】</p> <p>○年度末の教職員アンケートの「校内研修が充実していたと思うか」の項目について、肯定的に答える教職員の割合を90.6%以上にする。 【今年度100%】</p> <p>○学習者用端末で、児童が「心の天気」「オンライン授業」「相談機能」「デジタルドリル」等の活用を併せて一日1回以上行うようにする。 【今年度1回以上実施】</p> <p>○教職員の資質向上をめざし、授業研究を含む各種校内研修を月平均2回以上行う。 【今年度月平均2回以上実施】</p> <p>○教室の環境整備の目標として、児童の身長にあった使いやすい高さになるよう、年2回の調査を行い、適切な児童机・椅子を配備する。 【今年度年2回実施】</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6、教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】</p> <p>○児童用タブレット端末を学校生活や家庭生活に広く浸透させ、活用できるようにする。</p> <p>指標</p> <p>◇学習者用端末で、児童が「心の天気」「オンライン授業」「相談機能」「デジタルドリル」等の活用を行うようにする。</p> <p>◇年度末の校内調査の「日々の学校生活の中で、学習者用端末を活用している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を85%以上にする。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>○教職員が過ごし易い職場環境の充実に努め資質向上を図れる研修の機会を保障する。</p> <p>指標</p> <p>◇毎週1日以上「ゆとりの日」を設定する。</p> <p>◇授業中の会議、研修等がない日を年平均35%以上にする。</p> <p>◇会議等の資料をSKIPで配信し、学年で決議が可能な項目については事前に話し合っておくことで、会議等の実施時間1時間以内を80%以上にする。</p> <p>◇教職員の資質向上をめざし、校内研修を月平均2回以上行う。</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向8 生涯学習の支援】</p> <p>○生涯にわたり意欲をもって学習に取り組む児童を育成することをめざし、教室等の環境を整える。</p> <p>指標</p> <p>◇年2回の机・椅子調査を行い、児童の成長に合わせた適切な児童机・椅子を配備する。</p>	B
年度目標の達成状況取組の進捗状況の結果と分析	
<p>取組内容①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「心の天気」は、毎日入力するように声かけをすることにより、活用頻度を増やすことができた。毎日、学習者用端末を持ち帰るようになったことで、授業だけでなく家庭学習でも活用の機会が増えた。より身近な学習ツールとして活用する姿が定着してきた。 ・校内アンケート「学校でタブレットパソコンを活用して学習している。」の項目について、肯定的な回答の割合は87.9%であり、目標の85%を上回ることができた。 	

取組内容②

- ・毎週1時間以上、ゆとりの日を設定することができた。
- ・授業中の会議・研修等が無い日の平均は平均56%であり、目標の35%を上回ることができた。
- ・会議時間の短縮が図られ、1時間以内に実施できる会議の割合が増えた。会議等の実施時間1時間以内は、93%であり、目標の80%を上回ることができた。
- ・校内研修を定期的実施することで、教職員が学び合い、資質向上を図る機会を安定して確保することができた。
- ・校内研修は、年間24回実施するので、月平均2回以上実施することができた。

取組内容③

- ・年2回以上の机・椅子調査を行い、児童の成長に合わせた適切な机・椅子を配備することができた。

次年度への改善点

取組内容①

- ・学習者用端末の活用内容が特定の機能に偏る場面や、児童間での活用の程度に差が見られることがあった。教員を対象とした研修を実施し、ICTをより効果的に活用する方法を学び、教科や活動に応じた多様な活用場面を設定する必要がある。校内での活用事例の共有を通して、児童がより主体的に端末を活用できるように、改善を図っていく。

取組内容②

- ・業務の効率化をさらに進めるとともに、研修内容の充実を図りたい。短時間で効果的な研修方法を工夫し、働きやすさと学びの両立がより一層進むように改善していく。

取組内容③

- ・定期的な調査と環境整備を継続していく。